

「日本・ビンディン錦鯉センター」開所式挨拶

(2019年10月21日)

グエン・タイン・トゥン ビンディン省党書記

ホー・コック・ズン ビンディン省人民委員長

千代松 泉佐野市長

辻中 泉佐野市議会議長

ご来賓の皆様、並びに、泉佐野市からお越しの皆様

●日本政府を代表し、「日本・ビンディン錦鯉センター」開所式開催に心からお祝いを申し上げます。

●本錦鯉センターは、ビンディン省が自らの予算で施設を建設され、日本からは、加藤・日越塚友好協会理事長が「錦鯉」を寄贈、小西・全日本錦鯉振興会顧問が飼育の指導をされた、いわば「日越合作」の文化施設です。

本錦鯉センター実現の為に、御尽力いただいた日越両国の全ての方に感謝を申し上げます。

●日本では、「鯉」は魚の中でも特別な存在とみなされてきました。その一つは、男の子たちの健康と立身出世の象徴としての存在です。毎年5月5日の端午の節句には、子供たちの健やかな成長を願って、多くの家庭だけでなく、公共施設でも、「鯉のぼり」が掲げられます。

二つ目が、観賞魚としての存在です。古来より、日本では池の中を

優雅に泳ぐ鯉を見て楽しむ文化がありました。他方、鯉の中でも「錦鯉」のルーツは比較的新しく、今から約200年前、現在の新潟県で発見された、鮮やかな色をした突然変異の「変わり鯉」がその起源といわれています。この「変わり鯉」は、その後品種改良が加えられ、今では「錦鯉」として、日本のみならず、世界中で愛されています。

●鯉を特別な存在と考える文化は、ベトナムにもあります。

旧暦の12月23日は「台所の神様の日」、すなわち、家庭内の事情をよく知る台所の神様3人が、一家の善悪を「玉皇大帝」（ぎょくこうたいてい：最高位の神様）に報告するために、「鯉」に乗って天に昇る日とされています。

ベトナムの人々は、この日、神様が無事に天に昇れるよう、「鯉」を湖に放流したり、紙で作った鯉や衣装を燃やす習慣があります。

●現在、ビンディン省では、省指導者や加藤理事長をはじめとする多くの方々の御尽力により、日本文化に対する親近感が着実に育まれています。クイニョン大学日本語・日本文化センター、現在建設中の日本庭園と共に、この錦鯉センターが、ビンディン省における日本文化の重要な発信拠点となることを心から期待致します。

●また、先ほど締結された泉佐野市とビンディン省の友好交流覚書も、日越間の人的交流及び文化交流の緊密化にとって、とても大切な存在になることを、心から期待します。

●最後に、皆様の御健勝、本錦鯉センターの発展を祈念し、私の挨拶

とさせていただきます。ありがとうございました。(了)